

【主題】0才児における手作り玩具の役割

【副題】手作り玩具を通し、子どもたちの発達に合わせて出来ることを増やそう！

認定こども園長岡和光幼稚園なごみ保育園
くりおね組 田中 真優・塩川 未来・板垣 星里

1. 主題設定理由（目的） 世の中には月齢に合わせて様々な玩具が発売されている。しかしながら、子どもたちの興味関心が日々変わっていく中で、市販の玩具だとすぐ飽きてしまうことがあった。子どもたちの興味・関心に合わせて、どのように玩具を活用していくか、担任同士話し合い、どうしていくかを考えた。

話し合いの中で、子どもたちが玩具に興味・関心を持ち、どうしたら集中して遊べるのかという疑問が生まれた。疑問を解決するためには、①子どもたちが興味・関心を抱くような玩具を準備すること②今興味を持っていることに注目し、それに関連づいている玩具が提供できること③子どもたちの月齢や発達に合わせた玩具であることの3つが重要だという結果になった。

そこでくりおね組では、先ほど述べた3つのことを意識して手作り玩具を制作し、子どもたちに活動内で提供してみようということになった。また、手作り玩具で遊ぶことを通して、指先の発達や言葉の獲得など、1人ひとりの成長を促すことに繋げることができたらと思った。

2. 研究内容（実践） 1年間通してくりおね組では手作り玩具を通してどのように成長して欲しいかねらいを立てて、6つの手作り玩具の制作を行った。その玩具を紹介していきたい。

① スポンジボール

【ねらい】 スポンジを触ってみたり、水を含ませたりして、様々な感触を楽しむ。

【準備するもの】 ・スポンジ ・輪ゴム

【子どもの様子】 初めての水遊びを怖がらずに楽しめるよう、水遊びの玩具として作成したが、スポンジの独特な感触に驚いてしまい、なかなか触れようとしなかった。保育者が実際に水をしみこませたり、絞ったりして、遊び方の手本を見せると、

真似をして楽しそうに遊ぶ姿が見られた。ボールのサイズが大きく、水がしみ込んだり、絞ったりする様子をはっきり分かったが、月齢によっては上手に握ることが出来ない子もいた。



② 無限ティッシュ

【ねらい】 「つまむ」「引っ張る」「離す」動作の繰り返しで集中力を自然と身に付けながら、指先の発達を促す。

【準備するもの】 ・ティッシュケース ・スカーフ（ティッシュの代わりにする物）

【子どもの様子】 つまんで引っ張るという動作がなかなか難しく、新しい玩具に興味を示したものの長続きしなかった。保育者が手本となり遊び方を伝え、遊ぶ回数を増やしていくと徐々に遊べるようになり、つまんで引っ張るコツをつかんで楽しんでいた。

全部スカーフを引っ張り出したあと、長いスカーフを引きずって歩いたり綱引きのように引っ張り合ったりして危険な様子が見られることもあったが、スカーフで顔を隠し「いないいないばあ」の遊びに繋がり、他の遊び方でも楽しんでた。

スカーフを引っ張り出すだけでなく、長いスカーフをケースに押し込む動作の繰り返しを楽しむ姿も見られた。



(ビーズ遊び)

カラフルな見た目で最初から人気だった。掴んで横にスライドさせ、掴んで感触を楽しんでいた。

(チャック遊び)

最初は小さい物をつまむ動作が難しく、あまり子ども達が集まらなかった。そこで、チャックの中に動物やお花などのイラストを付けると、遊ぶ子が増えた。3月頃には、人気の遊びになり、チャックを下ろしながら「キリン!」「あおむし!」と呟いて、楽しみながら遊ぶことが出来る子どもが増えた。

(マジックテープ遊び)

マジックテープをはがして布をめくると「りんご」や「ばなな」が見え、最初の頃は「ばあ!」と呟きながら、楽しく指先を使って遊ぶ様子が見られた。3月頃になると、月齢の低い子も「バナナ」と単語が言えるようになっていた。

(ウェットティッシュの蓋遊び)

開けることが難しい蓋のため、誰も出来る子がいないと予想しながらの設置だった。案の定子どものみで開くことは難しい様子だったものの、挑戦をしてみようと頑張る子が数名いた。3月頃には開けることが出来る子どももおり、指先が器用になったと実感した。



③ ビジーボード

【ねらい】紐を引っ張る、チャックをつまむ、マジックテープをはがすなどの指先を使った動作を行い、手指の巧緻性を鍛える。また、イラストを付けることで、語彙を増やす。

【準備するもの】穴あきボード・段ボール・紐・ビーズ・鏡・布・チャック・マジックテープ・ウェットティッシュの蓋

【子どもの様子】保育者が遊び方を見せると、真似をして遊びの楽しさを知ったり、お友達の遊び方を見て真似をしてみたりする姿が見られた。下記にそれぞれの遊びの様子を記していく。

(紐遊び)

最初は力が弱く、上手く引っ張ることが出来ない子がいた。しかし、スムーズに引っ張ることが出来ると嬉しさから、何度も繰り返し楽しんでいった。単純な動作ではあるが、力を使うこの遊びは初めの頃から一番人気だった。



④ センサリーマット

【ねらい】手で触れたり足で踏んだりして、ざらざら、ふわふわ、でこぼこなどの様々な感覚遊びを楽しみ、五感を刺激する。

【準備するもの】 ジョイントマット・キッチンスポンジ・デコレーションボール・ペットボトルキャップ・センサリーバック・グルーガン

【子どもの様子】 クラスの子ども達全員が歩けるようになり、歩行で身体を動かしながら足裏からの感覚遊びも楽しめるのではないかと思い作成した。鮮やかな色合いや様々な素材を用いたことで子どもの興味を引き寄せられたように思う。

まずは一つ一つのパーツを手で触り感触を楽しんだあと、マットの上をゆっくり歩き足裏から伝わる感覚も楽しんでいた。好きな感覚のマットの上で立ち止まったりその場で足踏みをしたりしてじっくりと足裏からの刺激を楽しむ姿も見られた。特に洗濯のりや、色付けしたベビーオイルを使用して作ったセンサリーバックが人気で、手で触れたり足で踏んだりして中身の変化を楽しんでいた。



⑤ スナップボタンおにぎり

【ねらい】 スナップボタンを楽しくつけたり、外したりすることで、手指の巧緻性を鍛えたり、挑戦して出来たことの達成感を味わう。

【準備するもの】 様々な色の布や手縫い糸・スナップボタン

【子どもの様子】 「あいうえおにぎり」の曲が耳慣れてきた子ども達が興味を持って指先を動かせるよう、作成した。スナップボタンおにぎりを置いておくと、興味を持った子どもたちがボタンを引っ張る様子が見られた。ボタンをはずし、中のイラストを見つけると、指を差して喜んでいて。ボタンを付けることは難しいと感じたのか、保育者に「もう一回！」と気持ちを伝える子もいた。また、外すことが難しい子も「あけて～」と呟いていた。繰り返し遊んでいく中で、今度はボタンを付けることが出来る達成感も味わって欲しい。

また、同時に行っていた「無限ティッシュ」の空になった箱におにぎりを入れて、新しい遊び方を発見してより遊びが広がっていく様子も見られた。



⑥ 洗濯ばさみ玩具

【ねらい】洗濯ばさみをつまんで、指先の力を鍛える。

【準備するもの】洗濯ばさみを使って見立てる生き物の台紙・洗濯ばさみ・ラミネーター

【子どもの様子】洗濯ばさみと台紙を見せ、遊び方を実際に見せると興味津々で手に取る姿が見られた。初めは上手に洗濯ばさみをつまむことが出来ず、「できない!」「やって!」と訴える姿が見られたが、保育者が援助しながら洗濯ばさみをつまむとコツを掴んだようで、自分で遊ぶことが出来ていた。少し子どもたちの月齢に対して難しい遊びだったが、援助し声掛けをすることで子どもたちも楽しみながら遊ぶことが出来た。

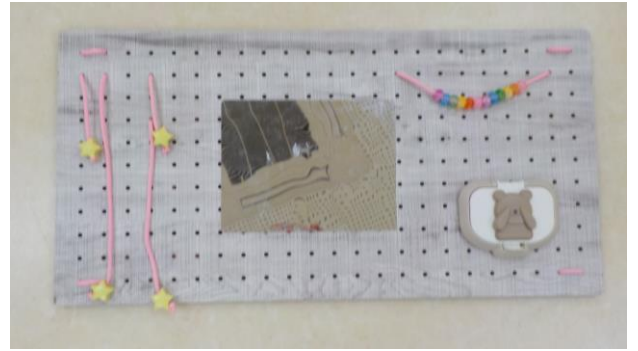


3, 実践結果・考察 6つの手作り玩具を制作し、いくつか感じたことを述べていきたい。まず、子どもたちのその時その時の成長や発達に合わせて、玩具を作ったことで、一人ひとりがより玩具に対して興味を示し、集中して遊ぶ姿が見られた。また、複数の玩具を同時に出し、コーナー遊びを用いたことで、子どもたちが自発的に玩具を選び、興味のある玩具を集中して遊ぶ姿が見られた。

ビジーボードや洗濯ばさみ玩具など、子ども達の遊ぶ姿や発達段階を見て、今の状況では難しいけど、一つ上のステップの玩具を制作してみた。始めはチャックや洗濯ばさみをつまむことに苦戦していたが、保育者が手本を見せ、ゆっくりやってみよう伝えたところ、落ち着いて諦めずにつまんで遊んでいた。玩具を制作するにあたって、制作段階での工夫も必要だが、実践するときの保育者側の配慮や声掛けの工夫も大拙だと実感した。

4. 資料

① スポンジボール



④ センサリーマット

② 無限ティッシュ



③ ビジーボード



⑤ スナップボタンおにぎり



⑥ 洗濯ばさみ玩具

